役者評判記

チ13
3851
23

天保
戊戌

# 役者見立番付

附録名古屋

京
大坂

中

多13
639
29

門ナ 13
3851
23





後者物語

▲実説後者物語

敵役 上上吉 岩井半四郎

[扮] 清田屋の一閑坐で外れ井を長屋の閑の殿

の殿り小金の色紙大きな麻後生ん[illegible]

金[illegible]

[芝居] [illegible]

せんといろく生涯とおもふ[illegible]

後助[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろく[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 上十目 ㊤ 浅草寺

[図版] 当時歌役の中で小さい利口な花九
生でありかれたる事中の陸奥を張り浅草寺
張役 [図版] 大寺院乾坤坊主と称せの所
ちとてれ寺の役者役者三枚目の新参でさ
されるなりまして [図版] 手数矢八[数]五の近
中分四二役勤る坂左衛門はの新作役かけ
天のひとり [図版] 代役 [図版] 武士の役
武士と同じ寺の役でたつて武士のうち

とる張おこしとしげ里切役をる近中分四天
為りく [図版] 三役作ったる本当の役作の先
人と力者りて同じ新作でる乳の役りあるを同
役ものこれ切役く切能役をまの小姓役
ミ女人のれ勤りたりく [図版] 百円六美役
茶屋源六役弥左右の役を近安く勤
あれば浮世絵のとうとう六役をより外和尚義
誠おくり出たりく切能役月出家師や
切とあるれ切役く志四今あり鬼がうるふ
ありりて六月六日の新地新芸を新ごう
右三役 [図版] 作者新作の住門又のれひるふ
こ分りて志四なりり小ぶり利口ものとう
芸者の新板のこれ役作役作者新作
出がた多りとと [図版] が新作出の方がた大きと
うはどうみりて [図版] まと新作りく [図版] 寺役

のもとに助くれば其夫ありのまゝに切れたる
夫婦なれば八月十分の
三七日 七月六日より
三度目 三度目の後
たゞ出でゝ来ること来たれば
出れば此の間に
所ちと異なる
ひ信じ
ぐ
浮
来たれば
小れ
弟
日切
仏
仏
仏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金色紙とぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]天王寺合戦と後世云へいれども[illegible]
頼朝世間[illegible]ん[illegible]義[illegible]
[illegible]今[illegible]
[illegible]
[illegible]仲
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新右衛門役出張と相成候ハ[illegible]
[illegible]
つれ[illegible]の生[illegible]
男でゆゑ[illegible]

さぶき　あるまとゝ[illegible]
大人女[illegible]
世[illegible]
父[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大ぶり〳〵 [図九] 切義経と文代三ツ役お持
参の役ばかりにて七月迄は妹背山
でうち続き [図八] 姫おとゝの恋ゆゑ思ひ詰る内
揚屋ばかり〳〵 [図九] 切波枕諸太夫食や
法善寺役茶屋の新地でもお勘おそめ久
松おれがお役をあらうとあぶらうてやらう〳〵
八月大坂の新地三流れ迄をさんさぬき
四ツ〳〵にて [図十] 切義経切後狐狸ばかりの
二三年前の芝居にてお勤めの分四九
月大和屋源氏太閤九月頃久留米の
会いでも祥は切千両幟を殺ぐ嬉
[図十一] 大役の文字ばかり送りの役
のみつゝもらくさあり [図十二] 川ふ
きてこゝろと数役の乳持ばかりとうとう大

がりもりこゝにばかりもあるふいてしまうさぞ大勢
〳〵 [図九] 多賀頼分世三ツ [図十] 小文字狐家鉄鉄
の法仙海安のお勤もあるの役をして [図十一] 川ふ
行のあれもつもあるの乳持一流の役をへ
舞人のかもあり〳〵 二役出代流ち平次の乳
なるゆゑ中くらゐでもあり [図八] 切八重垣ふ
ゝ助役は長ち茶や切りとみくゞ流よて
お分〳〵 [図十] 伊勢参れ多時三枚目のまふ
参れ流分これ仕場〳〵

上上 ✠ 〇 〇 〇

以ていらう〳〵三役者豆の花多井戸〳〵おとりの
正おりの〳〵八月少の新花三浦お仙こは寿
大発花役者役平好所内こまの〳〵さころを
文政四 切狂言義経千本桜 ○ 三月大西屋咲源氏川紙子三四郎
ぎたく祢乃芸鶴を文政四年ゆくの三番
いづれも評ちる役者のあらりめるかりまさぬ芸
乃世五段目角やも出勤あり 喜たらふぞれ
出勤を待ちます〳〵〳〵

## ▲義女形之部

**至三吉** **中村欣六** 角

欣九 役者ゆの御役者でかり弁ちまさ三郎
玉ま浦ひ役のお初役中川本の役 文政四 奥
方ま役お仙ちう家を九郎ちまるうとう
ゆりさ 切狂 後ちうはなせ役者をぬぐ世話の

形りの成の新ちう来とつれ芸名乃で一本のにふ
丸へうと探ちふりのでそんつ〳〵ちる正こ人ちげさる
ちふりのそへ後に初ドや 文政五 ちくあるちくんが
女形の大芸来の分てあるそれる役だる乃役
ゆ新ドやゆい女形さうく女の情がゆいと乃新
こんるとふこうぞとうのとまるとて物ちで
変情のたるちふるれさ方が乗乱し 文政六
二役者奥方まちいるひの外ちるちとふり
りさまがにて乃ち来子分 嬢ふりもまる
こが乃分ちべのでふり役のうりが乗ふり
外ちと探て入て嬢ちちいちるちふれこ
ま来さちちうふとるひ外 欣九 五月新りり
大西屋の会場と有田家のこりと芸陽意安
役氏役源八と義たうれ新江の情ちを
おとのれ主人乃乃ちのれひふりさ

[注記]あり狂とあるは西のかたひがしをさしていれば後
でかんがへるべし[注記]後世[注記]後
[注記]根山辻堂の切添八[illegible]新小路[illegible]と云
のあるが[illegible]辻堂と[illegible]切添八
[illegible]小路[illegible]死[illegible]とあるひがしをさしていれば
[illegible]小路[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちとけて間女の情けをつくしかりそめ歌舞妓
ほどもなくとかくもてはやされ世のうとてでるにつけ
いろ〳〵けいせいのてくだをつくしかりそめ
[ふりがな] 歌舞妓[ふりがな]てはやされ[ふりがな]
こゝ上でうく [ふりがな] 後程[ふりがな]江戸潮浦[ふりがな]
浦安[ふりがな]おまつ[ふりがな]女[ふりがな]ばかりでなりかりそめ情[ふりがな]
くにてうつこと [ふりがな] 女郎[ふりがな] [ふりがな] 今[ふりがな]平やだる
しやあいかた女[ふりがな]ばかりの世[ふりがな]作女[ふりがな]を遣ひさく
とあてはまるの意[ふりがな]遣ひ[ふりがな]
はいかに[ふりがな]
[illegible]

として後来[ふりがな]ばかりのことでかくれんと上[ふりがな]
ぐいとうのうりかたつて娘の伝[ふりがな]でれすれ[ふりがな]
大勢[ふりがな]でたつこと[ふりがな]の板[ふりがな]
初[ふりがな]ろ切[ふりがな]の世[ふりがな]

[illegible]
やうつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ㊗ 嵐 播磨 あがの

[illegible] 嵐氏でゆかりまつ三の紋り角小倉色紙と奥方おかさ役 [illegible] あのりとしてうふ
ゆうりこ二役小平次女房お花又の殺きとく
ゆこのりく仁勇てのうれひうふとまりこ [illegible]
手法ゆとおされてる浮くさうと義兵のだう
いれて本ゆうこうだいとりにかいうこあさうふの
あやちかりくへねてゆりけこれさへれと付ておれ
こと十分でゆりけど [illegible] 三役女藤吉浪江

[illegible] こんこうかのこいひひてゆこるりく [illegible]
ゆ月大西栄仁法新右ゆう女房お所役欲ゆ
実役おもと陽貴実役源八ゆうこ実はゆうれ
ゆうり源八の方と浪りひとりかゆうとおられひ
ふこさくゆうくゆ役源八花女藤吉役

[illegible] 三役源八ゆうとおるゆ八付浪りゆ
ゆの新地三浦おゆ仙と和田義勇方花の戸後
宮三浦二役ゆりけ分ゆ [illegible] 大西平次
源氏ゆうゆ乳母ゆ永二山五女房むこ戸と
役ゆりこゆりゆ役ゆけ分ゆ [illegible] さとゆ浪義
ゆゆ月小ゆてゆりけ大ゆりこ切ゆ人ゆ宮の捨七
田忠兵衛ゆ長牡丹千両懸山川女房おゆう役
ゆれこゆおりけゆこの世法女房ゆけ分ゆ山川役
嵐ゆ法ゆ役ゆ中だてゆうゆのゆとゆりゆこ

[illegible] 後浪ゆ欲ゆとゆりゆとゆてゆるとゆ役
山川ゆ役ゆて浪ゆりゆれひゆうふこさゆりこ
大ゆりく [illegible] 多賀ゆ世市東ゆけ義
沖ゆ井役ゆこゆゆ [illegible] 切ゆ大ゆこ実ゆゆ市
[illegible] ゆゆこゆてこゆしゆゆ役ゆて浪ゆうゆゆ
ゆゆ南役ゆゆりゆこゆこゆこゆこゆこゆ役ゆ

切ものの師匠はいのめも市のさうとてようこ
く成長なるほどに成長なるほどに仁安のお殿どもみく
隠居先生ごけのもどがうるもく　[ドキ]どうぞ長
るもおけ殿さまあるもること仕ますく

上上吉　中山家　[ドキ]小がこ

[ドキ]大ものもの[illegible]仁安二のうりう
[illegible]ごけ[illegible]月後　[ドキ]いる
[illegible]長[illegible]ようるもあるこでようすこと大帰
二[illegible]安後[illegible]仁[illegible]のぐさるもあるうること
同幕切影の通　[ドキ]長[illegible]
[illegible]大船[illegible]
長[illegible]の信[illegible]
今娘[illegible]
[illegible]信[illegible]
おさと　[さと]ろぐでは[illegible]

[illegible]
おりとおぜての信[illegible]
[illegible]三[illegible]
[illegible]別[illegible]
[illegible]娘[illegible]
の情[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]安[illegible]
[illegible]世
[illegible]信[illegible]
[illegible]
[illegible]七月[illegible]
[illegible]
[illegible]

西鶴月吉日ヨリ品條北側芝居
中村
友三
仁三
三郎
三郎
中山
南枝
村蔵
富三郎
村蔵
友三郎
寿
吉郎
友三郎
福助
女郎
岩井
今助
女郎
おその
村蔵

ろうさ（図）は女八幡姫様お役出入りの役者ひとりあるて
お金く（図九）八月中の狂物ぐさ姫さぐ
役後ろる豊年の姫（三郎）巻ろうの出ニつげ
のかず姫のつうあゆちかりうけ茶屋の
ふ付ろうさ（図）ぐ丸ぐうさ紋ぐ金を見物
いかうろ後の茶屋の茶とうんでさ出ちあぐ
ぐの姫いかうつうさいもく（図）たんぐうう情ぐ
ろうそ姫のろいと（図）ろうさそ三ぐうさ
姫と玉家くいてらうこいかうのくじゃがちと
かの見しかや（図）それいうの役出ぐるかうの
くさいうう姫ぐかう外ちう行内かうけちゃ金へ
ぐ外姫（図）後紋ぐ仕大勢ぐうのうふぐこ
姫と姫（図）ぐ来ると玉ぐ外ぐうろう彼ぐ
ろう人ぐ家付ぐうけうろうんぐそうあ乗ち
んとうぐ大ぐうろうあとびあい行内ぐう

うう巻のぐうこかそのうのかあ役ぐうびのびい
くぐ中めのうかふとうこひて乗ぐうどふ
のふひ入ぐやちんぐうけうろうあぐさ（図）ろれ
大ぐうろうしかんぐんのの行内ぐりうぐ
（図）ろうぐやうぐいのけうろう役初の中ぐびく
ぐ中めぐいけうろう（三郎）ろう祭り内の姫ぐこ
かいのも中かりうぐ中ぐんぐうぐ姫役姫姫
波のうろと退ぐうあ内ぐいく（図）切ぐう
力ぐんぐやお市役（図）ろうか役ぐいかうこう
ぐ中ぐ茶のぐさいてれうぐうのぐや源ぐ三ぐ
茶のが指ぐ切ぐあ内ぐろうぐたんかおうぐふ
指のぐ中ぐ二ぐ（図）ぐあい前ぐ切ぐ上ぐされと
いれぐうありうぐ（図）九月ぐ茶ぐうぐ
姫威谷ぐけ世ぐ三浦浪ぐ三役ぐう
分（図）三役姫おうぐ別ぐうありうぐ役

夫役お仙が山中で殺さるる所大でさく四作
達姫こおも役 [illegible] 右三ヶ所ともに
うぬお[illegible]こ姫の仕内めの[illegible]
の所で歌の[illegible]

[illegible] 漆ま強とさく所人形仕ろの[illegible]
刀物一流が所びやりさ[illegible]
く [illegible] 所々 [illegible]
じや [illegible] 右役[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 上上吉 中山みき △

[illegible]

## 上上吉 [illegible]三郎 △

[illegible]

三ぢく平紋平出の旅市と呼びしなり秋林氏
後荒松殺さんとしろもの人殺さんとも思
ひわかぐ長刀とめがねりくだかるまでもこと大で
もく思ひ出さるこの男がそれ嫁とも
づけの嫁でいつさ　さき　あるものだがうつの
さきさんなるかぐじゃやふたりのもちのこころ
をどやと二孫かんんく　一九九　ひ月初り美
女多る憤娘物ぐ後　三九九　三ぢく氏後抗
こ本源く外ぐ邪とぬかるとそれ物ぐ娘の清
ひつてよりありかこ後ぐ父ふ新ひ聟ぐ美人
恨ふ形るらくうふ本の物ひ女ぐいこうぐ形
るか分思ぐ後源こ外のかとそうひ出て大
仁房ふ殺さるこうこそでこうく　一九九　体物ぐ新
国長武ぐ平ぐ女武源をいとうこと思ぐ切嫁人
小銀源女武おこうふかぐ孤二後代か分思

月少の新地刑ぐこ牧のこと上ぐ切八
市ぐ長ぐ女帝ぐ密ぐこうふりかりぐ切村ぐ長ぐ
高のおこん　姉が　さこのぐりとこ信月ふりこ　一九九
ぐれこうぐ名ぐふ表ぐおこりこ今ふ月海後思後
地の浮別ふか上二郎　ヒイキ　物ぐ長ぐる浮の
ふの氏ぐふかやふ表ふ物ふ人ぐれぐどふ
ぐ表ふ伊殊長ぐつ長ふ名ぐふこうぐ名ぐふこと
上上上上回　実川国三郎　者
一九九　実川氏ぐ表ぐ玉ぐ浮ぐ世ぐいうはこ
べ娘の二後代か分思ぐ月嫁心配物こ見物
ぐ思ぐこうこと思ぐ切後新色嫁ぐ娘ぐ後　三九九
嫁ぐふこうこうぐふ思ぐこ娘でいつこ七月婚
ぐ娘後新ぐ少思ぐふ市ぐふこうく　一九九　対
少の新地ぐ後ぐふ仙ぐかぐ思ぐ切長武後
ぐこぐ妹ぐ市浮ぐ者頭ぐ世系者ぐこ先

代表とけい世界ぐるまの大かべのお角さ
うとと思[ヒキ]をぶつ浮ぶ[illegible]ねちうと
思て咲する[illegible]ぶ[illegible]
上上吉 ⑧ 御川路豆腐 角
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲若女形萬卷頭

大上上吉 中村富十郎 自

[張入]男性美女形の初鼠の女房十郎太で
[ヶ]行太夫中の往二の祭り玉を張こて
[ヶ]市之の井役[美濃]女房太役新右衛門
[ヶ]ぐりそのれ初)お招りちゝ[ヶ]ぶこ[ヶ]
[上]後日宴[ヶ]て[ヶ]迄[ヶ]分[ヶ][張入]二役娘
お三そ低里の場[ヶ]男[ヶ]ぶ[ヶ]場[ヶ]巻
乃ゝの出えハ行の神田[ヶ]ゝ[ヶ]ゝ[ヶ]
[ヶ][ヶ][ヶ][さぐ]後就若女役入[ヶ]
ぐえ初て女作女役男張七と居ゝ[ヶ]
ゝ[ヶ]ゝ[ヶ]ゝ[ヶ]ゝ[ヶ]ゝ[ヶ]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀の仕合もうく後弥多の郡ゆれていそぐ
のやうや分かしたごとく 頃の八くさの役
が長浦やあく桜らうろ人とやりさ 既九 八
月中の新地芝居出風の役者そうり目
出勝さ三浦お御別三浦お仙役 丑七 丈
左衛のけんぼうやとのかりして女盗賊と成
牢用金と集る所男場りの仕合の中お女
の情あくたごとく 寅十 小姓ゑと三代記と
切狂別お役小条所姫と男今姫お鶴ゆう子
勢りこれ者なるこれ大勢りく 寅十四 切
義経ほとおらんの方れ又海安のお勢四郎
とうるみ及ぶもれ 仕度かるそく 子七 薩摩
実の引ゑの口上ゆうく 卯八 女形で姓
役とあり目入とうり目ゆゑ芝居やとれ

既九 九月中の往来下ゆ姫役二この口



さ部 清盛の門前と清盛との仕合物語
うるりさ 寅九 三浦月ゆ目うゑ目ゆる所浦
るう小今ての門数文のお勢四郎おるこ
おどやや分四切ゆ根浦村とお小役数ゑ
ちの浦役ゑとうるゆ来りてて親こゆ会れ
浦ゑとゑとうてのうゑ八目浦役ゑが祝
ゑゑとのゑてゑゑ引ゑ八うく所ゑかばこ
姫の仕門たごとく 丑九 式人手く巻文
姫役おごゆ浦くうゆ四ゆ文ゆりてきさぞ 既
大切ゑ宮四十郎ゑ文千四ゆ忠退若狭ゑ雪
待ゑ物ゑ世書ゑさ役 寅八 式狂ゑ故人
西浦風とゑ仏ゑが出ゑ故人ゑゑゑゑ
りとうゑ目役ゑでゆうゑ孫ゑ今のあ
浜風新がおく場浦ゑうれゑゑゑゑ
ゆ若狭ゑ目ゑ出されうゑゑて大人であさ

[文政] 女郎の丈の後の程をそなへ姿さて
[川柳] 添ねの後あとかたの二人のあと二間とあるが
[文政] 文政者と文人の多勢り我もとせんとまるる
時子勢りそのこの二人のあとへそのるが
[川柳] 多のりこ [さぶ] 志ひとりぐ女郎の丈のうろ
て物を仕内あくこんさぬ程を文丸物見
くたさか弥うくわ仕意くく [文政] 切廓文章
夕ごう後を文おそ入こ程多分見多頭
乃世京南ぐ出代代表けは世ぐ尾後 [川柳]
紙の切うう者くぐれめぐりてう切ぬひ殺
さく形ふ多りりこ二後めのこ改意 [川柳] 代
後に紙年大後内見時少の彩地でたこ文
多りでけつこれて体切多様ぐ手拭こぐり
かせんと多代とうるそ文のきうれひ
そ者ぐこの仕内代初ぐこふりけこ二ぐの後

[文政] 文丸 [川柳] 京扇でも一流と恨びすこと大多り
添文多ことりふ多ふふの菓の後茶の場 [川柳]
文殺者ふ合形うこん社ふ物くぐ形ぐ
下後の時物後代の菓のてたこ者文文
の方ぐこふ形ぐこふ形で [文政] 代貧後文の
切る弾く後ての文ぐ形ふる文ぐく
[文政] 切大後師 娘ふ三れ物頭こうれ
ふれり大後でこふれこ主ふ後の方時ぐ
大多りてこふ見 新後多文 [川柳] 京扇ぐる
大こふ弾く文れ物代文の頭文世代多こふ
国ぐ上こふふこ [文政] それふ者ふふ代ぐりて
へこふ代云多こふ京拝後文の初ふりで
初月の出れ国ぐく者ふ代人文れぐこてりこ
[文政] 物代これ文人大後国代ふ者ぐく [文政]

とぶでまるとやうかおかりろへ役ろて形ろ
井でヤレ殺波のろすなとちのく

## ▲惣後見

古今物語頭 ㊙ 村玉助 角

[説九] 扨ふかぐろ内ろ三ぐ洋ろおいて後長尾
中の王内ろでろ井 [ヒイキ] ヤレ狩ろて返洋
ろろのふ洋ふろてヤされ [説九] ろ長中の殺
二ろ狩ろ丸ろ洋ろ洋ろ [芝居] 新ろろ役
ろ丸役ろろの井ぐろぐろてろれてめて医
ろろろ丸ろ狩ろろろ年ぐちぐろ丸汚奥ろ
ろかぐろ両目ろ丸ろ洋ろ自分ろ年ろ丸
ろ狩ろ丸ろ役ろ [ヒイキ] 後ろ丸ろ
ろろろ丸ろ狩ろめ殺ろ狩役ろろ丸狩ろ返
役ろ切ろろ狩一流ろ役ろろひのれ搦後
ろ洋ろ丸ろのふ丸ろ [説九] ふ切ろ二ろ



義経ようむ屋ろ家ろ丸ろ狩ろ丸ろ
ろふりめろろ丸ろろの幕切ろふふ役へ
ろれの顔色ろろろ [切り] 新ろろ洋へ
赤松丸ろ丸ろ八能ろ丸ろ丸ろ家
ふかろ丸ろ丸ろ八能ろ丸ろ丸ろ
ふ丸ふかん役丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ狩ろ丸ろ洋ろ洋ろ [説九] 二役長
役丸ろ [ヒイキ] 狩ろ丸ろの場娘ろ三ろ丸ろ丸ろ
せ自場ろ丸ろぐろ丸ろ [切り] ろ三ろ巻
丸ろ丸ろ丸ろ能ろ丸ろ丸ろ丸ろの狩ろ
幕ろ丸ろ [芝居] ろ内役丸ろ丸ろ
ひふ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ
ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ丸ろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出でんとすれども、こゝかしこの人目多く、思ふ方のまゝにもあらぬ身なれば、
てゆくゝやすらひ、そこらあるめぐりをうかがひ、
うかがひ、秋の長日、たのもしきふかきもたのみなれば、
てもなほうさはしやと、[表の通]それもうらやましく、
小秋の月と秋の長日、これと秋のうさはらし、
と勧めこんぢやうれひふかさ、[考人]ひ
流れの流れとこゝろ、
おもひ、秋の月、[表の通]
とのうさ、[裏九]後段、河清浦と
仏法をもめのうさ、[裏九]
平家の浦、[表の通]
平治の乱、
おもひ、
出でんとすれども、
小秋の月、
とのうさ、
仏法をもめのうさ、



天竺、[裏九]
鬼界、
おもひ、
小秋の月、
[表の通]
[裏九]
[表の通]
[裏九]
[裏九]
[裏九

行ものの場でのり弁切腹の儀八月十日に成る8初日出で仕り夜と
中ゆきて 【ケイキ】 拵弟子共孫右衛門三郎左衛門
故人なる旦四人芝居が一所にち出す
芝ぬぐいのぞき長ハれこ文行りも角中ノの
拵でもるれ毎年とも奥ハの出るる
ちゑ小ゆ彩と弁ゆ 【敬九】 せ毎歌三六申
の年年歌沢山角のとの考ゆ小多
猿ちこる成のこ京坂五年の彩九世
大入大繁昌奥小ちゆ年の代の夢と
月出家年七祝めんるる

役者名鑑大坂の巻終

名代座人芝居数役者目録

芝居芝居　名代　松代左源右衛門　千代左長七
掛附芝居　名代　紋弥左源三郎　左流　義

◇九名所づくし小ようたのでー

極上吉　▲数巻頭別座
市川海老蔵　義

七代の名ろ一座乃　かざう扇

上上吉　▲三役そ紋
尾上多見蔵　掛

めりさうと仕ゑんのこへ月の出扇

上上中　市川市十郎　義

おれてんこちゆさ　打ナ扇

上上中　実川延三郎　月

しごろそ出ーこ　殿中扇

上上中　市川猿之助　掛

沢山ひめこちゆ　屋敷扇

上上中　小川寛蔵　義

を初ん八仕ゑんが　中汐扇

上上 嵐橘二郎 美 橘
嵐若三郎 橘
上上 中村芝九 月
市川蝶十郎 美
上上三吉 中山彩女郎 橘
▲実悪敵役
嵐冠十郎 美
上上三吉 朝の谷蝶十郎 月 新扇
上上中 市川扇蔵 橘
中村ゆく二 月
上上中 市川栄く三 美

上上 嵐徳十郎 橘
市川宗三郎 美
尾上弱蔵 橘
上上中 大谷門蔵 橘 美 白扇
▲若女形
嵐徳三郎 橘
上上三吉 嵐三五郎 美 黒の扇
上上中 尾上梅く郎 橘
上上一 市川三の丞 美 陣扇
尾上伊三郎 橘
上上 坂東うめ三 美 桜扇

上上　中村欲右衛門　偽　彩色紙
　　　

千年亀鶴の家系

霍亀 鶴
京河弥三郎
竹光 達
霍 程 浦
京河紋治郎
京河庚介
京河富士介
霍 誘 浦
京河力 浦
霍 益 誘



極上上吉 回 市川海老蔵

[図] 江戸名所の図会の絵の通り桜方の図会の武蔵の絵の戸根の天王の長海老蔵屋敷の内の井 [ずもう] 行てみるべく

[図] 東西 [ずもう] 相撲の年代

[図] 東西 [ずもう] 相撲の年代

[図] 方行ゆく成田屋敷の内の井又初日の出を待る井る正月下旬と初日が出りて

役者の花道の図書と初原のぐんりょうをもて二度浄瑠璃の原を義づるもん

[図] 東 [ずもう] 相撲の年代

[図] 東 [ずもう] 相撲の年代

[図] 東 [ずもう] 相撲の年代

墓切の松と切てのけ人迹十分なく次の墓建
ものの坂そ小法者の坂その仕方異なるや
法の流れ人共人の名ものの大のとそ故
仕方なんなくなれり因て坂とかけとて人共
四付の二名方稽古と雖も稽古なく両名なく
式坂が二日のめとでなり外に後程三流平つじと
然後後ハ一つ付く岩三その人へいの
ある志の妻の筋ひと共多分人なりこそ及ら
なりの不情とみる仕方なく坂切こるものの
戻るる而乃奥大体流のまゝ稽古ばなんん
ひと外さ[ばなし]先代稽古なりなるが名人で
なるさ[改元]後医者へなりに後ならひの
後の長付方と長さとの刀人へ市川の一流坂
中一流後なる切程云ひなる平流後なや
ろ[ば]蔵りとのとかものなるとそなる長人



ろ後市右衛門と対面の刀人変の事と
見れなるなる後打流と平流とてあるなく
なるんんんんく二度程なるへいなるとう
[乃奥]指なるなるのなるふ流平流都平後は
のなる兼光なるなの個へなるとなるる所と
んんのとなるなる程なる分流なる後ある
なるなるなるなるなる代なるの坂なるなる引
なれなるなるなる長付なるなる敵
なれなるなる[改元]二度目茶番なる
後なる代程なる長程なるなる二度目茶番なる
月なる御なるなるなるなる[改元]なるなるなる
この後合なる[奥]大名の後なる後分なるの筋味
なる長なるなるなる流なる長なる中
分なるなるなる[改元]なれなる三度目程長の
後合[坂]長程なるなるなる長人が

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せうの文盛衰の場所よりの何付かんぐく
又陸中丸のしのはまこて拾て巻物落とれ
ての義物 [illegible] 義のかとわりのるを
てこれが彩り盛衰をこの所れ赤あ行あめと
盛物のとをたて盛入のひとを生て横ぐう
そうるを迎ろく近をの分色のたを多く [illegible]
切物をえうこ盛こ成田や作の小半清盛 [illegible]
色盛田や作の入を牡丹若葉の盛
新切てこの牡丹うをて所ありと色田の
ところ入名をやの引用と春をあをとり外
[illegible] 二段九をの所の所へせう付ようぐく
の赤もの九沼ろ面白をえんぐく義物
海をんこんの九をおあく長寿物をあ
をこをの家七をの家全体せ牡丹の分
あくををく [illegible] 義物いあのをゆら



江戸狂言でもどけけこあ狂うをうがをちん
度用て用もできぬこあをでけうこ [illegible]
他へ格別を三年の人多りを多名行人物
金く高名多人の牡丹をけをこう外
成田やく〳〵り [illegible] イヨ

## ▲五段之部

上上吉白 (丸に三) 尾上菊五郎 福

[illegible] 山形の美女の名人を用や安で作り外
[illegible] 結てのをく [illegible] 牡丹成田や安張
金て扇や絵柄の多くを出ぬをこをを
ちり外をこをたをのかをこかをれをこ [illegible]
底をのやぐをちをの安絵柄をを出れ [illegible]
生安信仰を再生とれて段をけをこ [illegible] 段物
不格をの人をを付れを出の人達をたれでん
出をんをを生のををのををををををを

じゃ 以九 [illegible]

上上吉 回 市川市十郎 丞

以九 [illegible]

上上吉 実川延三郎 丞

以九 [illegible]

上上吉 [illegible]

以九 [illegible]

合ごとにあるべきこと
平分なるべきこと切刻や上段段ごとも
はしるをなるべしひらなるべし指はしら面ものとでぬぎ
すべきこと八分二式多段は腐れもとちつとめべ
相指上の切り段の所中狩会ぐり狩こ三切り
腐蔵こ師直段ごとのぐんなるべしこと二段狩
二段八切りべしこ三段は蔵八分くさとが蔵
老蔵こ刀八分すこ三の切り八各こぐこ八ちち
刀切先平分なるべしこ[図九]狩面べ
高[図]梶原上[図]の出猪ならこ狩平多ち丸
八分すこ切ならこ蔵こ後系次段はこるこ

上上上回 中山彫刻師 猪

[図九] 彫刻平井指八系の尾ちなこ平分なべ
大できさもちろ系平刀八狩こ系や切のちく切
平分なべ大できこ二段ち多八子こ系狩

こ[刀切先] 狩八分の切りのけるふのしけこる相多系や
の平[図]ちなこ大できこ[図九]切蔵八各こ段段
ちなこ大できこ蔵れ系こ系こ蔵系
相狩系段ち平狩平平[図]ちこ狩こ
こちも平分なべこ八分できこ

上上上回 中山彫刻師 猪

[図九] 系小ちこ蔵段狩こ動こ平分なべ
系多八系多八系こ系こ八こ切大
平分系多八系こ系こ系こ系こ切
円蔵こ系こ系の系平分なべ大できこ
こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系
系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系
系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系
系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系

上上上回 中山彫刻師 猪

[図九] 蔵系平平段こ系こ系こ系こ系
こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系
こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系
こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系こ系

たのもり見の別ことゝ出来ること

▲そ、れの後其年中の寒氷俳諧に

役者評判記名古屋の巻終

天保
戊戌

# 役者評判記 下

手多 13
1039
24

後者元元節

義景定

唐半紙

ぞめと引清く

一ぢん醉したる

砂妙の

新後明

新頭向内

ちん弦

場尚りなとる

極元結　豊野

清容様の

清水茶屋

高い高い

居酒屋も

中村屋

いしも河原嵩の

料理家も

繁盛

入り

都二丁目縁

中村屋三所屋

市村羽左衛門屋

河原崎権十郎屋

○若竹新吉屋

○若竹新吉屋

▲歌巻頭

上上吉　市川団十郎

ふじのくに新田のあり川屋

▲後見

極上吉　市川海老蔵

おろく屋清兵衛の八百善

極上吉　尾上菊五郎

いなきそいろく料理のある浅川の玉屋

▲客

極上吉　市川団蔵

かくちゃうぶしまのあるもの屋太

至上上吉　関三十郎

ひろくそく料理のある本の河内屋

▲立役之部

巻頭
大上上吉　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　沢村訥升

上上上吉　[illegible]　市川九蔵

[illegible]　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　市村家橘

上上上吉　[illegible]　市川八百蔵

上上上吉　[illegible]　市川[illegible]蔵

上上上吉　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　市川[illegible]三郎

上上上吉　[illegible]　市川八百蔵

上上上吉　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　尾上松助

上上上吉　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　市川海老蔵

上上上吉　[illegible]　市川[illegible]

上上上吉　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　[illegible]

上上上吉　[illegible]　

上上吉　東京芝神明宮の百川

代々名人の出る家にて名高き

▲敵役

上上吉　尾張　駿子帝

京にかくれなき侍にて居る方手形

上上吉　中村芝子帝

下ぶくりたりのとけたる人形丁の

上上吉　浜松三浦屋

めでたくやうくまそざんねんなる樂く亭

上上吉　市川一友

一すとくしきのもとの井

上上吉　関　歌助

よくつんだものとうしのつかつて

上上吉　尾上菊四帝

めつきとうけのうきにて戸

上上吉　浜松鉄子帝

初出やうにめづらしのさうか

上上吉　東吉原

上上吉　大谷馬子八

苦くるまさくるめの目ぶの七刀

上上吉　浜松三太郎帝

上上吉　中川源五帝

上上吉　四国仁子帝

上上吉　浜松助若帝

上上吉　尾上菊蔵帝

上上吉　市川寿海帝

上上吉　中村友蔵帝

上上吉　大谷馬子八

上上吉　市川門十帝

上上吉　中村仁蔵帝

上上

上上

上上

上上

中村産

三千

百九十

山田産

百九十

上上

上上

市村産

百九十

上上

河内

上上

上上

上上

上上吉同
所西さとう能まさ　岩井松之助
上上上　市川三蔵
大文字屋　芝の八　芝のくろま屋
上上上　小川安之助
見世ひらきあくらしの天竜や

上上　岩井松之助
上上　市川三蔵
上上　芝の八
上上　芝のくろま屋
上上　小川安之助
上上　岩井松之助
上上　市川三蔵
上上　芝の八
上上　芝のくろま屋
上上　小川安之助
上上　岩井松之助
上上　市川三蔵
上上　芝の八
上上　芝のくろま屋
上上　小川安之助
上上　岩井松之助
上上　市川三蔵
上上　芝の八
上上　芝のくろま屋
上上　小川安之助

[illegible]
上上吉　嵐　[illegible]
のづまとうくしの向ひの大七
上上吉　坂東三三郎
[illegible]きさ二郎兵衛
△坂之部
一廣田助左　坂東義助
市川[illegible]　尾上[illegible]
岩井[illegible]　岩井[illegible]
中村[illegible]　中村[illegible]
坂東[illegible]　沢村[illegible]
坂東[illegible]　中村[illegible]
市川張助　沢村[illegible]
岩井[illegible]　市川[illegible]
沢村[illegible]　岩井[illegible]
中村[illegible]八　坂東[illegible]
冥　二太　冥　[illegible]
中村[illegible]　市川[illegible]

坂東[illegible]　中村大吉郎
坂[illegible]　嵐　[illegible]
[illegible]　坂東義松
[illegible]　山[illegible]
冥　二[illegible]

△坂之部
[illegible]
[illegible]
[illegible]

市村屋

河原崎屋

中村屋

市村屋

河原崎屋

中村屋

武井安治
並木利右
福寿之助

山家義もおもしろかれとも外にえらばれぬ
中比一さ山桜春やすらはるる

上上吉　市川雷蔵
上上吉　中村富十郎

諸車大名の初年のこうらいへ
聞く山家の大名と名のるうみと市川
弾ゆく別紙名を市川うら嵐
義とあるのうまに敵打屋島浦
八戈ゆく諸方のうらの名と初めて

のち市川新蔵と改名あるて紙
紙大社名を実市川道史大坂表
へも登るまに屋名吉松表へ
も変く出張ありて浪速大中
山富三郎と名のるうみと市川
雷蔵と改られ特に浮ゆく
大方名とものるうまきところ当
年四十二歳と一番として極楽
浮世へ乗込れふ初く搭乗で
ムウ年ゴ法名貴号市川追る
二の智りホヤ上ホ上ホ識上海の
種でムウ年初ゆ代表助太義
も代ゴ中村右衛門元の四門弟ホ
て三階の形をつとあるまに浮世
考く上立師の名人史で外の特

[illegible]のごとくまた千代菊
助と名のるもいつもの大きなる者の
わるいに仁王の張り手をうけ口をあ
極楽浄土へおりむかうもとの菊菊
の菩薩の数ホのうへへ物を
[illegible]ものとあるホのうを
あつまり[illegible]様何卒一座の
皆さうと悔と孔子をする

五挿亭

[illegible]
義の者をあるや
[illegible]
[illegible]
二[illegible]
現世[illegible]
一[illegible]

▲惣巻狂言

上上吉 ◎市川團十郎

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

[illegible]極上吉

[illegible]市川海老蔵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の西と云づれて白糸と云れ中
幕あげの酒山松屋宇七あの芸の
[老人]
[illegible]
[illegible]
[illegible

来迎寺ハ[ラ]ヶ[ヲ]ヶ[ヲ]ヶ[ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年にて[illegible]年にて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みこの御給はる文、ぐうの局、雲客、ゑ二代の
尾上、ぐそ、ぐそ、ぐそ

牧羊よりたぐひなきあがり流れを抜き出でて
のかぐわしき名ばかりにあらず今年【万延元】されば
こそ秋種蒔に出でたる百姓ども
【安政五戊】酒井大の御所重き御
二百俵の米を賜はりく【万延元】相模ばかりの
らの役人方御普請の御手伝ひ
きに三百の松切の為に三百人同勤手
されいろく無宿者共の中へ分け二百人
の助御普請とてそづくとかり出されて
不足なく仕たれば大工ども助のうけつけ
【考人】故く新水戸の殿をとられたるとて
附万端ととのひ御普請でなく
これはまうるのうまうまの動手ばかり
分なく出たのうち年後切の三百人同
中ほどの助九百人ばかりとなり

孤児の武田播磨守義敬【万延元】義敬
[illegible]
山の手ばかりも時代[illegible]
[illegible]
世ばかりの[illegible]
功人中人分るに当時[illegible]
去三幅對のを一人[illegible]
只世に例[illegible]
[illegible]
[illegible]
一年六月の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[脱文] 三ツの藤よ若るもの一人大和殿の奉給
ま一ゐ年とのくすめうこうと為ゐ奉ゐ仕
仕上られ奉ゐ [ヒイキ] 去ぬる [ヒイキ] 去ぬる寛治元年
ゆ[illegible]ゐ不月中ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[ヒイキ] 去れ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[脱文] [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

市川八百蔵
関三十郎
沢村宗十郎


市川團十郎
尾上菊五郎
市川團蔵
市川團子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ◎ 市川九蔵

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ◎ 市川團三郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]七月[illegible]
[illegible]
[illegible]

の結ぶ〻〻程云ふ大変まで少もあるうの
ひまくわ紙の長さ風で今年 天功元 去
あがら市紙只拵る此一種云ふかまだ
キが仕行おつてやり分ず 芝左衛門 を年
多病なれ一ケ年六部ずつの間時〻〻
れる中困りキ丈底が出来て拵まく
当時自様よ市ふよ拵まよ新ぶまいあ
毒彼の匹天王伝のものわざ天八今年 弘辺
云ふ家田寺へ一すあり三ケ所の熊谷
毎年あつあ所やかあつ大事来 天功元 毎
父三の切斗上紙外が一ケ谷紙付のあつ
拵るはのでケ年を後八仏体を付
中村やまそ名所ふ拵ふ浦谷制文寺庫
拵寺上拵紙はあ文やはれ和い
刈れめ〻ふ天年来あつ〻れあ方〻よく

大まつ大洋制二度目ふ人を拵わ〻ず
拵紙あ四つ紙そで上紙ふ紙く 芝左衛門
紙所あ所ふ紙が上やつで今年が出文い
上ふ所利文で今年ふ三度あ上ふ切の拵
毎文宮勧ふやあ〻ふ右尽の大事来 天功
去ふ〻ふ上ふ文ふ上ふ紙ふ紙く上度中寺
紙年右ふ中人分ふく拵ふ紙ふふ上ふ年ふ
紙元 九度目年ふ紙 天功元 力拵が〻ふ紙ふ
し強ふ上ふ紙ふ紙ふ力拵ふ上ふ拵ふふ
紙ふ上ふふ〻ふ拵ふ右ふの大事来右ふり 紙
元 ふれ紙ふ上ふ大ふ大ふ紙ふ四ふ拵ふ紙ふ世ふ中村
拵ふ紙ふ拵ふ中ふ年ふ拵ふれ紙ふ〻ふ拵ふり
右ふ拵ふ紙ふ年ふ初ふ元ふ紙ふの分ふ年ふ〻ふり
紙ふ紙ふ四ふ拵ふ拵ふ中ふの上ふの紙ふ拵ふ仕ふ年ふ

## ▲献役うく部

功上上吉 ◎ 嵐 冠十郎

[illegible] 初かり別[illegible]の[illegible]

[illegible]のたつかりのでゑ[illegible]手 [illegible] 二月狂言

鬼[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上 ❀ 坂東太郎

[四天] 坂東太郎の所生なり 其川水の海陸を交
通ずるの利益今の大船
小船 一河 岸心坂東を陸の海
上上 ◆ 坂東三郎好

[四天] つまぐの名代男のつのかつら
名高き男の剛人なり 一文字長刀を持
左右の手に大なる 何のこゝろぞ 家
元れど余人の所為 [illegible]



上上士 ◎ 数限まる六

[四天] 大坂屋太郎 長中村座 者役人
を 横へ 知 [illegible]
[illegible] 和 大 [illegible]
[illegible] 敷 [illegible] 市 [illegible]
[illegible] 二 [illegible] 女 [illegible]

上上士 ❀ 尾上菊四郎

[四天] 四天の 坂 [illegible]
[illegible] 九 [illegible] 二 [illegible]
[illegible] 仁 [illegible]
[illegible] 人 [illegible]

上上士言 ❀ 中村芝十郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上上吉

[改元] 御[illegible]の[illegible]

小[illegible]川常世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ホ底で分ケホ何のとらってもは幸抱ぐかん
ぐ〻おとこ義こかゝよ二段もろこの大ぜ未
為幸中一ノ為りでかり手こおきこ者ろ
みか病ハ座言言ぐ教ぐ世も市村座
四年上年おぐ〻ハ久ハ出義家世
上上上上回 ◎ 尾上菊四郎

[改元] 高砂屋の花子尾上菊次
去新ノ世市蔵国座かゝ也五の所ま
りだんまり上るりとりうんちまこ [元初表] こ
くハ年ぐうぐ第一ぐだんまりとり上
るりホ成ひの所名ハ所名中村軍
蔵ひまぐ松ハとひれ所中村座ぐ級人
秀様大今の稼ぐ楽ぐ三人も勧られ
一狂言で分ぐ初上るり下の巻ぐ三郎
ぐの狂言ハ大ぜ〻ぐ二月中村座ぐ

田舎娘さうるおぐ〻ぐ [改元]
宝ハ義ぐ一力の巻ぐ房二段大ぜ女
房ぐ花ハ文ハ勧ぐ世巻の見ぐ
出ハ毎ぐ文ぐ勧方ぐ分ぐくとうぐ
ぐ勧ぐ文ハ方ぐ分ぐ出ぐ見ぐ
市せぐ文ぐ義ぐ必ハ今の名ぐ
上上上上言 ◎ 岩井松之助

[改元] 宝ぐ名ぐの巻ぐ平松ぐ歌ぐ
我ホ方ぐ三ぐ名ぐ巻ぐ小ぐ狂
言ぐ大ぜ義ぐ二段ぐ三ぐ大ぜ未ぐ出義
ホ段二段ぐ長ぐ大ぜ未 [著人] 注ぐ
とぐ文ホ義ぐ文ぐ歌ぐ文ぐ名ぐ巻ぐ名ぐ
時ホ文ぐ巻ぐ文ぐ巻ぐ文ぐ巻ぐ人ぐ巻ぐ
世ぐ文ぐ巻ぐ文ぐ巻ぐ一ノ巻ぐ
よぐ文ぐ巻ぐ文ぐ巻ぐ巻ぐ巻ぐ巻ぐ

## 中村芝翫

### 叶張子

[所元]ひとりの人とも不知なるこゝに俳ようく
ありて芝翫を[illegible]迎ふ[illegible]多病不[illegible]り
の人[illegible]角に迎ひ[illegible]ちもそれくの[illegible]物
に拙き[illegible]みんな[illegible]藤田[illegible]中村[illegible]芝翫
ありとあらゆる[illegible]男で[illegible]
[illegible]何[illegible]けても大[illegible]
[illegible]ん[illegible]でなり

上上上吉

## 坂東玉三郎

[所元]大[illegible]藤の[illegible]
[illegible]田[illegible]
られ[illegible]男と[illegible]
人[illegible]一人[illegible]



おいらの[illegible]と一同[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と入れて[illegible]

[illegible]

古今無類 ㊗ 出石井社[illegible]

[illegible] 二ツの[illegible]

[illegible]

和歌アリ〳〵く [illegible] 初[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女房[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金く社長のなる柄三月往長市
村屋まそるまよ屋行ふおるのもの
二段大姫ハ二ケの俳の屋ある一月、
ばるおのくの後、六合金彩く二ケ
よる物姫形ふおのて六中分ふく家
く来る家田屋家物ふて家屋ぐ
ふ一文字の孫の女房[芝居]ちうく
万端中分ふくいふも小花盛の女
房と大本市村屋二ケ後屋ふて宣長
祝ふ千ある自様よ市ふよなく人
とも大高りく家田屋金屋ふ辻
ふ孫七女房ふ孫ふ村の海宮
ふく[図九]市村屋二ケ後、梅川市ふ
よ本屋ふそのふのふ屋ふく後日
ふ屋俳ふく七日ふ多く長金

ふ屋ふよりふふ屋ふ
ばるふ二ケ月ふ長ふ
ふられふ大阪長ふ初ふ
よくはるふ家橋ふ二後ふ
とおるふそばふ長ふ
十月中ふふ月ふ
けばふふふられふ[ヒイキ]イヨ
くふふ大家ふ[アル]ふ
西ふ若長ふふふふ
いふふふふふ中
長人中ふふられふ
ふふふふふ
ふふふふ
ふふふ

休みなく無用あり上を対ちなく休
所をそへ其をそへ赤瓦の瓦一四方廻
濃の石とを入れ合せられ三寸高さ曲
合をつぎ目不見もあるなれ
きをつぎ出雲瓦の越後瓦一四方
寸月をそへたるもちろんつけ垂不報
戸を世まで無用なるもの越さるを流石
大江戸花生の大きなる者三寸の陳
無数の立ておやまと一四伴なく

[illegible]されどもそれ程の高一寸無
お貴方の実に感佩道の無濃と
なり手なり

[illegible]イキ イヨ大和絵大の作
と一流よりあげられあるべくなく
京無類 松竹

[illegible]松竹千年の祝うあると



なども色い幾代ともなく四季
の大枝まで寒暑雨露を凌ぎ
ども矢張葉の間より入るまけど
なるとも動かられけれども年
とのうちの見えぬ所なくこれ一流浮
ようく高附中樹丹の中花を抜
尺五寸一寸安田丹を助をそ
くの基本たるべきの例のごとく
修繕をなすべ遠を長清を社
長を人間復を之の
樹屋不人間をたれまり安く市
をそ宮稿を之樹まよのおもなり
あるんでの基本を記く

[illegible]人の
那をなりは今のうちちょくそなるべく
ようく今後の世をもとくをもまの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吉中村右衛門殿
一番五番二番度番へやうとと
三ついち四つ二六三六大二五三五
番四三四の稽方く歳と行納む

作者　八文舎自笑
補述　四文舎浪九
校元　八文舎八方
江戸屋太助

天保九戊成年
正月　吉日

彼者記弟　江戸屋終